

反歌

山越乃	風乎時自見	寐夜不落	家在妹乎	懸而小竹櫃	万葉集卷一 6 軍王
山越の	風を時じみ	寐る夜落ちず	家にある妹を	懸けて偲ひつ	
やまこしの	かぜをときじみ	ぬるよおちず	いへにあるいもを	かけてしのひつ	
山を越えた	風が絶えず吹き	夜はいつも	家で待つ妻を	偲んでいる	
https://kochi-esc.sakura.ne.jp/wordpress/%e4%b8%87%e8%91%89%e3%81%ae%e5%9c%b0%e5%ad%a6/					